



血液内科

永春 圭規



腫瘍内科医

山下 芳樹

医局のリアル vol1

○ 今日は、腫瘍内科の山下先生にお話を聞いていきたいと思います。では、さっそくですが、先生が血液・腫瘍内科に興味を持ったきっかけは何ですか？

＜ 学生時代の免疫の講義をきいて、がんを免疫で治せるんじゃないのかな？と思ったのが、最初のきっかけです。その後、臨床の勉強をすすめるうちに、様々な分野に興味を持ちましたが、結局、最初に興味をもったがん治療を志そうと決めました。

○ がん治療以外に興味をもった分野は例えばどんな分野ですか？

＜ 消化器や循環器分野の内科治療の発展がめざましいと感じました。新しい画像検査や、手術で治療していた疾患が、カテーテルやカメラを用いて、どんどん内科的に治療できるようになっていることを知り、大きな歴史の流れのようなものを感じました。

○ それで、まず内科に興味を持たれたんですね？

＜ はい、これからどんな病気が内科的に治療できるようになっていくだろうか？とワクワクしながら想像したり、友人たちと熱く語り合ったりしていました。

○ 次にがん治療がくると考えたんですね？

＜ その通りです。逆張りの発想で、専門家のたくさんいる、内科治療がすでに発展した分野に進むよりは、これからの発展が期待できる、がんの内科的治療の将来性にかけたいと思いました。

○ なぜ三重大学の血液・腫瘍内科を選んだのですか？

Y 出身大学は愛媛大学ですが、地元が三重県ですし、当時から三重大の血液・腫瘍内科はがんの免疫治療の研究で有名でした。そして、三重大の友人にいろいろ聞いてみると、「医局の雰囲気がいい」「先生方が優しい」「軍隊的などころがない」「関連病院が多く、経済的にも問題ない」など、いい話しか聞けなかったのが、最後の決め手になりました。

○ 休日の過ごし方は？

＜ 月に二回は、病棟の日直などの業務を担当します。それ以外は、基本的に家族と過ごすようにしています。休日でも患者さんを診に病棟に来ることもあります。

○ 当番の先生にお願いして、まるまる週末を家族と過ごす予定を立てることも十分可能です。そのへんは、お互い様ですね。休日の過ごし方などは、医局の雰囲気が出やすいところだと思います。そういう意味では、血液・腫瘍内科に入ってよかったと思います。

○ 山下先生は診療以外にもいろいろ活動されていますよね？

＜ 学生教育とか、最近ではコロナ関連の仕事にも積極的に関わっています。あと、地域の自治会長もやっていますよ（笑）。家庭内や近所で仲良く心穏やかに過ごせることは大切ですから（笑）。

○ 自治会長もやっているとですか（笑）。いろいろチャレンジしてみたいと考えている若い先生方も多いと思いませんか？

＜ 学生さんと話していると、ますます価値観が多様化していく時代の流れを実感します。医局にも、多様な価値観やアイデアを包み込む懐の深さや風通しの良さがますます求められると思います。

○ 後輩へのメッセージはありますか？

＜ 三重大学の血液・腫瘍内科は風通しがよく、伝統的に若い先生方のチャレンジしたいという熱い思いを大切にすることで発展してきた医局だと思います。三重県で内科を志す方は、三重大学血液・腫瘍内科を是非、考えてみてほしいです。気楽にメールしてください。

（このページは広告です）

医局にも、多様な価値観や風通しの良さがますます求められると思います